

# 9月1日は防災の日

防災の日は、大正12年（1923年）9月1日に発生した「関東大震災」を教訓にして防災を見直し、この時期に多く発生する台風への心構えの意味も込めて、昭和35年（1960年）に制定されました。

平成23年に発生した東日本大震災以降、平成27年9月には関東・東北豪雨で常総市が水害被害を受け、昨年4月には熊本県と大分県で大地震が相次いで発生しました。そして、先月7月5日には記録的な豪雨が九州北部を襲うなど、全国で甚大な被害を受ける災害が多い傾向にあります。

災害はいつ起こるかわかりません。いざというとき、大切な命や財産を地震から守るには、日頃から危機意識を持ち災害に備えておくことが必要です。

## 備えておきたいもの

ヘルメット：家族の人数分

懐中電灯：1人1本

携帯ラジオ：FM・AM両方を聞けるもの

予備電池：多めに用意

飲料水：ペットボトルで1人1日2～3リットルを目安に保存

救急医薬品：常備薬、絆創膏、風邪薬、胃腸薬、目薬など

貴重品：預貯金通帳、健康保険証、免許証、現金など

非常食：そのまま食べられるものか、簡単な調理で食べられるもの  
（乾パン、缶詰、レトルト食品、インスタントラーメン、チョコレートなど）

生活用水：ポリタンクなどに入れて保存

生活用品：タオル、下着、衣類、毛布、ビニール袋、ティッシュペーパー、洗面用具、マスク、使い捨てカイロ、新聞紙、生理用品、軍手、ライター（マッチ）、ろうそく、携帯充電器、など

乳幼児がいる場合：粉ミルク、ほ乳瓶、おむつ、離乳食など

※非常に広い地域に甚大な被害が及ぶ可能性のある南海トラフ巨大地震の備えとする場合は、1週間分以上の備蓄が望ましいです。

## 災害時の心得

### ①早めの避難を

避難勧告が出たときや危ないと感じたときは、隣近所の人と連絡を取りながら早めに避難しましょう。避難する前に、忘れずに電気・ガスなどの火元を消しましょう。

### ②最新情報を入手

テレビやラジオ、インターネットなどを利用し、最新情報を入手しましょう。避難の呼びかけに注意してください。



### ③避難は徒歩で

車で避難すると渋滞に巻き込まれるおそれがありますので、なるべく徒歩で避難しましょう。

### ④避難に適した服装

ヘルメットまたは帽子、長そでシャツ、長ズボン、軍手、底の厚い靴で避難しましょう。持ち出し品はリュックサックなどに入れて両手を使えるようにしましょう。

### ⑤避難場所の確認

お住まいの地域の避難場所を市のホームページなどで事前に確認しておきましょう。一次避難所は公民館や集会所、二次避難所は公園、学校などが指定されています。

### ⑥家族で話し合いを

家族が離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などをあらかじめ決めておきましょう。

## 災害伝言サービスのすすめ

近年、大規模な災害時に電話回線やインターネットを通じて安否確認ができる「災害用伝言板」が各社から提供されています。災害発生時には、ぜひご活用ください。

### NTT 災害伝言ダイヤルの利用方法

#### 1. 「171」にダイヤル

#### 2. 録音したいとき

「1」を押す。

・被災地の方…ご自宅や電話番号または連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルする。

・被災地以外の方…連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルする。

#### 3. 再生したいとき

「2」を押す。

・被災地の方…ご自宅や電話番号または連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルする。

・被災地以外の方…連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルする。

その他にも、災害発生時には携帯会社などの各社でも災害伝言板を設置していて、ドコモ災害伝言板、au 災害伝言板サービス、ソフトバンク災害用伝言板、Y!mobile（ワイモバイル）災害用伝言板、Google パーソルファインダーなどがあります。

また、SNS（ソーシャルネットサービス）の普及により、LINE、Twitter、Facebook などを利用した情報共有や拡散、安否確認などにも利用されています。ライフライン確保と同時に、様々な手段を使って最新情報を入手することが大切です。

